

令和7年度 かほく市立金津小学校 学校評価計画書

経営目標	取組内容	主担当	(昨年度末最終達成状況) 現 状	評価の観点	達成度判断基準	備考
1 学力の向上	ア ★ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、授業改善を図る。	学習指導(関)	(A:90%以上) ・授業の始まりにゴールの姿を児童と共有し、学習方法や道具を選択し、自己決定する機会を増やすようした。また、個に応じた指導のために、児童の見取りを大切にすることができた。	【努力指標】 個に応じた指導や支援を行うために、考え方をもつ時間や場を設定して、学び合いにつなげることができ 【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 「あさはよしを意識して学習に取り組むことができた」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。 教員自己評価
	イ 学び合いの土台となる「金津っ子学びのスタイル～あさはよし～」の着実な定着を図る。	学習指導(関)	(B:80%以上) ・相互参観の時期に合わせて、それぞれのクラスで「あさはよし」のめあてを決めて取り組みを行った。自分たちのレベルアップを目指してめあてを設定し、指導する教員の意識も高かった。	【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	「あさはよしを意識して学習に取り組むことができた」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。 学期末児童アンケート
	ア ★ 1人1台端末の積極的な活用で効果的な学習に努める。	GIGA推進(北)	(A:年間7回以上) ・今後も月1回程度の研修を行い、効果的な活用方法について共通理解していく。	【努力指標】 考え方を交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A:年間7回以上 B:年間6回以上 C:年間5回以上 D:年間4回以下	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。 GIGA校内研修会
	5 カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成に努める。	教務(釜井)	(A:90%以上) ・総合的な学習の時間と生活科だけでなく、算数科や他の教科でも同様に実践するなど、取組範囲が広くなった。	【満足度指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	楽しいと感じている児童が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。 学期末教員・児童アンケート

2	生徒指導の推進	ア	「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的に行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導 (横田)	(A:90%以上) ・生活目標の取り組み方に慣れてきている。学校生活の生活習慣の一部のようになってほしいで、継続していく。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよい行動ができるように取り組んでいる。	生活目標のふり返りにおいて、児童肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表
					(A:90%以上) ・規則正しい生活に対する意識が高まるように声掛けしていく。またメディアとの付き合い方を児童に啓発していく。	【成果指標】 自己のよりよい生活習慣の定着に取り組んでいる。	肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		学期末児童アンケート
		イ	生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にする心情を育成する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・今後も継続していき、より一人一人の頑張りを児童にも保護者にも広めていくようにしていく。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、よさを伝えることに積極的に取り組んでいく。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	学期末教員自己評価
					(B:80%以上) ・安心して過ごせる学校をさらに目指して、人の気持ちを考える機会をさらに設けたり、児童に素敵な姿を伝え、広めていく。	【成果指標】 児童は、自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがある」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		学期末児童アンケート
		ウ ★	いじめ・不登校・問題行動の早期発見に努める。事案に対しては全職員での情報共有、迅速なケース会議を開催し、組織的に対応する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・未然防止にさらに注力し、保護者と学校とがさらに協力できるように情報を発信していく。	【努力指標】 個別の支援シートを作成した児童を中心に、児童理解と支援を行うとともに、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		学期末教員自己評価
		ウ ★	特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。(SSRの活用)	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・個別に最適な学習の進め方や児童主導の授業スタイルにチャレンジしていく。	【努力指標】 学習や生活に生徒指導の視点を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価

3	情操豊かな心の育成	ア	道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	道徳教育推進教師(瀧田)	(A:90%以上) ・別業の内容を見なおし、重点目標について意識して指導できるようにしていく。 ・地域とも連携し、ゲストティーチャーを招く機会を設けていく。	【努力指標】 道徳の授業づくりを工夫する。 ア 中心発問の吟味 イ 言語活動の充実 ウ 値値の自覚化 エ 道徳掲示の蓄積	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。	学期末教員自己評価
		イ	「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的な体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	教務(釜井)	(A:90%以上) ・年間を通して「金津の森活用計画」を推進することができた。高学年の金津の森プロジェクトは下級生の目にも触れるので、いつかは自分たちもできるという期待感を高めることができた。 ・3・4年生が新たに金津の森を発信していく手立てを考え、計画を具体化することができた。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、その要因を明らかにし、金津の森活用計画の内容について再検討する。	学期末教員自己評価
		ウ★	幼小連携では園との交流会の設定、小中連携では授業参観や情報の共有等を通して、幼小・小中のスムーズな接続を推進する。	教務(釜井)	(A:90%以上) ・幼小連携では、交流活動を通して園児との円滑な接続を図ることができた。 ・小中連携では、合同の活動や情報交換を通して学びをつなげていくことができた。	【努力指標】 講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、体験活動等の取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価
4	健康と体力の向上	ア	「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」「のびのびタイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	特別活動体力づくり(北)	(A:90%以上) ・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。 ・今後も、風っ子タイムで運動に親しむ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。	【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価
		イ	健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。	保健安全(山本)	(A:90%以上) ・基本的な生活習慣の確立のために、家庭との連携を図った強化週間を設定する。 ・生活習慣の基盤である「早寝早起き朝ご飯・歯みがき」について関係機関(学校医・栄養教諭等)と連携した指導の充実を図る(保護者参観型形式など)。	【努力指標】 児童が主体的によりよい生活習慣づくりに取り組むために、家庭や関係機関(学校医や栄養教諭等)と連携した指導の充実を図っている。 【成果指標】 家庭の協力を得て、児童は基本的な生活習慣を送ろうと取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末児童アンケート 体力アップ1校1プラン実施状況

5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	ア	各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭 (遠田) 情報 (北)	(A: 90%以上) ・コドモンでは、スマートフォンで見る保護者も多いと思われるため、スマートフォンでも見やすいように写真を多く入れたり、文字の大きさに配慮したりした便りを心掛けていく。 ・今後も計画的に配信や更新を行っていく。また、ホームページの更新も保護者に伝えていく。	【努力・満足度指標】 HPや学校だより等各種たよりで、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価
				教頭 (遠田)			肯定的な評価をする保護者が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満		学期末保護者アンケート
6	多忙化改善と人材育成	ア	効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直し、及び定期退校日、学校閉庁日の意識化を図り、時間外勤務時間80時間越えゼロ、年間360時間以下を目指す。	教頭 (遠田)	(A: 90%以上) ・勤務時間管理を意識した働き方を促すことで、業務改善の意識を高めるとともに、教職に対するやりがいを持てるような職場づくりを目指していく。	【成果指標】 業務改善の取組が勤務時間の改善に表れている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価
		ウ	学級経営や学校運営への参画意識を高められるようPDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭 (遠田)	(A: 90%以上) ・今後も、全職員の共通理解・共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。 PDCAについては、特に検証・改善を確実に行い、さらによりよいものにしていく。		肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満		学期末教員自己評価